

(7)

(1)

0106

RB'-0023

0184

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

條約の整理
150款 2/3

昭和二十一年四月二十四日

國際聯合（「エナイツェット・ネーションズ」）
其ノ後ノ進捗狀況
（其ノ二）

(K 61) 2

條約局第二課

0107

本稿ハ藝ニ當課ニ於テ假印刷ニ附シタル同題名諺書ノ續編トシテ
一月中旬以降四月下旬桑港會議開催直前迄ノ國際聯合（「エナイツェット・ネーションズ」）其ノ後ノ進捗狀況ヲ取纏メタルモノナ
リ。

0108

RB'-0023

0185

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

目次

一 三國會議談 (ワシントン、ワシントン、ワシントン) 會議談 25

二 安全保障理事會ニ於ケル表決手續 16

三 米、蘇ノ三票要求問題 16

四 「タンバトーン、オックス」提案ニ對スル各國修正案 25

五 領土的信託制度 25

六 國際司法裁判所 25

0109

國際聯合 (「ナイツド、ネーションズ」)
其ノ後ノ進捗状況 昭和二十四年四月二條約二課

(一) 三國會議談 (ワシントン、ワシントン、ワシントン) 會議談
對獨軍事計畫、對獨處分、歐滿ニ於ケル政治外交上ノ諸問題ト共ニ「タンバトーン、オックス」會議ニ於テ未解決ノ諸問題サレタル安全保障理事會ニ於ケル表決手續ヲ調査シ且聯合國正式會議ニ關スル七綱ヲ決スベキ米、英、蘇三國ノ首腦者會談ハ二月四日ヨリ十一日迄黑海沿岸「クリミア」半島ノ「ヤルタ」ニ於テ開催セラレタリ。

(二) 會議談ハ軍事問題ノ討議ニ始マリ二月七日華府、倫敦及「モスコ」ニ於テ同時ニ左ノ中間發表行ハレタリ。

合衆國大統領、ソ連外務大臣及英、蘇、米三國ノ首腦者等ノ參加ニ於テ、三名ノ外務大臣及其ノ補佐官ヲ帶同シ目下黑海沿岸ニ於テ會議シツツアリ。

彼等ノ目的ハ共同ノ敵ノ覆滅ニ對スル計費及彼等ノ同盟國ノ共ニ恒久ノ平和ヲ確立シタルニ在リ。

會議ニ在リ、會合ハ引導キ進シツツアリ。

勢ガ會討セラレテ充分ナル情報ガ交換セラレタリ、「ナチス」對逸ニ對シテ戰爭ノ最終段階ニ於ケル共同軍事行動ニ關シ完全

0110

RB'-0023

0185

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

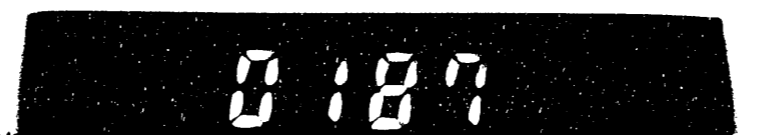
National Archives of Japan

ナル意見ノ一致アリ、三國政府ノ軍事參謀ハ目下協同シテ詳細ナル計ヲ作成中ナリ。諸問題ノ討議モ亦始マレリ、此等ノ討議ハ獨逸ノ占領及管理、解放セラレタル歐洲ノ政治的經濟的諸問題及平和ヲ保持スベキ恒久的國際機構ノ成立可ク速ナル設立ノ爲ニ提案ニ關スル共同計畫ヲ包含スベシ。會談終結ニ際シ「コミニケ」ハ二月十二日發表セラレベシ。右最後ニ「コミニケ」ハ二月十二日發表セラレタルガ國際會議ニ關スル部分ノ通

聯合國會議
我等ハ其ノ同盟國ト共ニスル平和及安寧ノ保持ノ爲ノ一般的國際機構ノ成立ヲ速ナル設立ヲ決意セリ。且經濟的協力ニ依リ變我等ハ右ガ一切ノ平和愛好國民ノ緊密且經濟的協力ニ依リ變格ヲ防止シ且戰爭ノ政治的經濟的及社會的原因ヲ除去スル爲肝要ナリト信ズ、右基楚ハ「ダンバートン、オークス」ニ於テ案出セラレタリ、尤モ表決手續ノ重要ナル問題ニ關シテハ合意ニ達セザリシモ今次會議ハ右基楚ヲ解決スルコトヲ得タリ

我等ハ右ノ如キ幾種ノ章章ヲ「ダンバートン、オークス」ニ於ケル非公式會談ニ於テ提案セラレタルガ如キ方針ニ則ヒ準

備スル爲ニ聯合國ノ會議ヲ千九百四十五年四月二十五日合衆國「サンフランシスコ」ニ召集スベキコトニ合意セリ。支那政府及「フランス」國政府ハ合衆國ノ英國及「ソ」聯邦政府ト共同シテ會議ノ召集ヲ主權スル榮直ニ協議セラレ且要請セラレベシ、支那國及「フランス」國トノ協議修ヒタルトキ直ニ表決ニ關スル提案ノ正文ハ公表セララルベシ。



合衆國政府ハ「グレートブリテン」及「アイルランド」聯合王國政府及「ソウエイト」社會主義共和國政府及「中華民國政府」代表シ○（被招請國政府各律入）政府ガ國際平和及安寧保持ノ爲ノ一般の國際機構ニ關スル憲章ヲ準備スル爲メ合衆國桑港ニ於テ一九四五年四月二十五日開會セラルベキ聯合國會議ニ代表ヲ派遣センコトヲ招請ス。

前記各政府ハ會議ガ「ダンバートン」オ「ク」ト「招請」ノ結果去ル十月公表セラレ而シテ第六章第三節トシテ左ノ條項ニ依リ「補完」セラレタル一般の國際機構設立ニ關スル提案ス

ハ斯ル憲章ノ基礎ヲ爲スモノトシテ審議センコトヲ提案ス

（中略）（註）投票手續ニ關スル條項）

準備ニ關スル詳細ナル情報ハ追テ轉達セララルベシ。

○（被招請國政府名俾入）政府ガ會議ニ先テ前記提案ニ關シ見解又ハ批判ノ提示ヲ希望スルニ於テハ合衆國政府ハ斯ル見解及批判ヲ爾餘ノ參加國政府ニ轉達スベシ。

招請狀ハ左ノ聯合國政府ニ發セラレタリ。

「オーストラリア」聯合國「ベルギー」王國「ボリビア」共和國「ブラジル」聯合國「カナダ」王國「チリ」共和國「コロムビア」聯合國「コスタリカ」共和國「キューバ」

國最終「ユニタ」ノ趣旨ニ從ヒ米國ハ英蘇等ヨリノ委任ヲ受ケ佛・支那國ニ對シ會議招請共同主催方交セル處支那ハ應諾セルモ佛ハ「ダンバートン」オ「ク」ト「招請」ニ參加セザリシヲ由トシテ會議招請主催國タルヲ拒絕セリ此ノ間ノ經濟ニ關シ「グ」ト「務」次官ハ三月五日左ノ聲明ヲ發表セリ。

「クリミヤ」會議ニ於テ合衆國政府ハ會議ニ代表セラレタル三國政府ノ名ニ於テ中華民國政府及「フランス」共和國假政府ガ合衆國政府「グ」ト「ブリテン」及「北」部「アイルランド」聯合王國政府及「ソウエイト」社會主義共和國聯邦政府ト共同シ一九四五年四月二十五日桑港ニ會合スベキ聯合國會議ニ對スル招請主催方勸奨スルノ權限ヲ與ヘラレタリ。

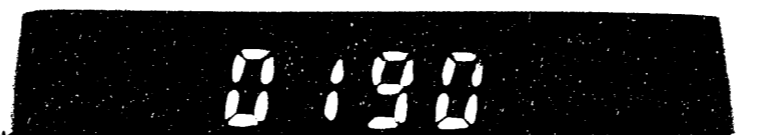
此等ノ協議ハ既ニ行ハレタリ、中華民國政府ハ桑港會議ニ對スル招請主催參加ニ合意セリ、「フランス」共和國假政府ハ會議參加ニ合意セルモ主催各政府ト協議ノ後「ダンバートン」オ「ク」ト「會」談ニ參加セザリシ同政府、招請主催ニハ參加セザルコトナレリ。

本日正午（華府時間）世界各國ノ各首都駐劄合衆國政府代表者ハ三十九聯合國政府ニ對シ次ノ招請狀ヲ提出シソツ



安全保障理事會ニ於ケル表決手續
 (一) 安全保障理事會ニ於ケル表決手續ニ關シテハ「ダンバートン
 オークス」會談ニ於テ蘇聯ガ常任理事國一致ノ原則採擇方ヲ
 固執セル爲遂ニ同會談ニ於テハ未解決ノ儀ニ終リタル次第ハ
 常課作成「戦後ノ一般的國際機構ニ關スル米、英、蘇、支(重
 慶)會談」一「ダンバートン、オークス」會談ニ於テ述ベ
 タル所ニシテ本件ノ解決ハ結局「ヤルタ」會談ニ持越サレタ
 リ。
 而シテ三月一日「ルーズベルト」上下兩院合同會議ニ對ス
 ル報告演說「ジエームス、バインズ」ガ「ヤルタ」會談ヨリ
 歸華後二月十三日華府ニ於テ爲シタル言明及三月五日「ステ
 デイニアス」ノ「メキシコ」シテイニ於ケル演說等ニ依ル
 ニ「ヤルタ」會談ニ於テ本件提案ハ「ルーズベルト」ヨリ爲
 サレタルモノノ如ク更ニ「バインズ」ニ依レバ「ルーズベ
 ル」ヨリ右提案アルヤ「スターリン」ハ其ノ點ガ會議ニ於テ
 紛糾セリトハ知ラザリキト述ベ制裁規定以外ニ關シテハ「ツ
 サリト讓歩セル趣ナリ」(二月十四日紐育發「スペインスカ」特
 電)。
 (二) 斯クテ安全保障理事會ニ於ケル表決手續ニ關シテハ「ヤルタ」
 會談ニ於テ米、英、蘇、支(重慶)ニ於テ意見ノ一致ヲ見タルモ本件ニ

關シテハ「ヤルタ」會談最終「コミュニケ」ニ於テハ其ノ内
 容公表セラレズ、重慶及佛トノ協議後發表ノコトニナリ居リ
 タル處三月五日「グルー」聲明ニ於テ招請狀ノ内容ノ一部ト
 シテ發表セラレタリ。
 右ニ依レバ安全保障理事會ノ表決手續ニ關スル條項左ノ如シ
 第三節 表決
 一 安全保障理事會ノ各理事國ハ一箇ノ表決權ヲ有スベシ
 二 手續事項ニ關スル安全保障理事會ノ議決ハ理事國七箇國ノ
 贊成投票ニ依リ爲サルベシ
 三 其ノ他ノ一切ノ事項ニ關スル安全保障理事會ノ議決ハ常任
 理事國ノ一致セル投票ヲ含ム七箇國ノ贊成投票ニ依リ爲サ
 ルベシ、但シ第八章第一節及第八章第三節第一項後段ニ基
 ク議決ニ關シテハ紛爭當事國ハ投票ニ參加シ得ザルベシ



向「グルー」ハ安全保障理事會ハ表決手續ノ項目ニ關シ要旨
 左ノ如キ說明ヲ與ヘタルコトアリ。

(1) 新國際機構ハ希臘國中ノ一國ノ行動ニ依リ平和及安寧ヲ登
 表決手續ニ關スル條項ノ適用セララルハ安全保障理事會ガ
 何等カノ表決ヲ爲シ又ハ行動ヲ執ラントスル場合ニ限ル。

(2) 規定ノ表決手續ノ下ニ於テ希臘國ハ如何ナル紛争又ハ國際
 紛争ニ關シテモ安全保障理事會ノ意見ヲ尊重スルコトヲ妨
 ラルコトナカルベシト諒解ス。

(3) 安全保障理事會ニ於ケル表決手續條項ノ下ニ於テハ紛争又
 ハ國際紛争ニ關シテ討論セシムルコトヲ妨ケラルコトナカル
 ベシ。

(4) 又希臘ノ理事國ハ昔後事項ニ關シ其ノ希望スルガ如キ一オ
 プザベインヨシヲ爲スヲ妨ケラルコトナカルベシ。

(5) 常任理事國ハ二國方紛争當國タル場合ニ於テハ新國際機
 關ハ双方共ニ第八條第一節及第八條第三節第一項後段ニ基
 ク表決ニ關シテハ投票ニ參加セザルベク此ノ場合ニ於テハ
 安全保障理事會ノ表決ハ爾餘ノ常任理事國三國及非常任

場合ニ於テハ理事會ノ前ニ於テ同等ノ地位ニ在ルコトヲ意味
 ス、更ニコノ事ハ世界ノ如何ナル國ニ離テ其ノ立場ヲ安全保
 障理事會ニ於テ聽取セシムルノ權利ヲ拒否セラルベクニシ
 ルベク有ラユル國家ノ平等ニシテ民主的ナル權利ヲ尊重セ
 ルベキコトヲ意味ス。

若シ紛争ガ斯ル手段ニ依リ解決セラレザル場合ニ於テハ安全
 保障理事會ニ於ケル主要ナル問題ハ武力ガ使用セララルベキ
 否ヤニ在リ、其ノ場合ニ於テハ安全保障理事會ノ常任理事國
 ノ投票ハ全會一致ナルヲ要ス、此等ハ侵略ヲ防止スルニ亦分
 ナク工業的及軍事的力量ヲ保有スル國家ナリ、然レドモ斯ル場
 合ニ於ケル安全保障理事會ノ議決ハ七ヶ國ノ多數ニ依リテ
 爲サレ得ベシ、コノ事ハ常任理事國ノ依リ行動スル義務
 決テ爲シ得ベキコトヲ意味ス、又コノ事ハ非常任理事國ガ行
 動ヲ防止シ得ベキコトヲ意味ス。

ト述ベ安全保障理事會ハ表決手續ニ關スル所謂「ヤルタ」方式
 ヲ採シ居レリ。

殆ル規定ニ基キ安全保障理事會ハ國際平和及安寧ヲ危
 ナラシムベキ事ヲ紛争及事變ニ付決定シ紛争解決
 ノ爲メ外交交渉ノ中調停仲裁裁判若クハ司法裁
 判等ノ手段ヲ採用シ提議シ又ハ紛争解決ノ適當ナル手
 續及手段ヲ勸告シ或ハ法律の性質ヲ有スル紛争ハ一
 則トシテ「國際司法裁判ノ案ニ移スベキコトヲ指示
 スル」紛争當時ハ表決ニ参加セサルモノトス
 テハ紛争當時ハ表決ニ参加セサルモノトス
 第二章第三節第一項後段ノ場合
 右ハ地域の取極ニ付期待シ居ル處此ノ際安全保障機
 構ノ一般の指導ニ依ル地方の紛争ノ解決ヲ勸告スベキ
 安全保障機構ニ依ル地方の紛争ノ解決ヲ勸告スベキ
 ノト爲シ居レリ。而シテ地域の紛争ノ解決ヲ勸告スベ
 ン問題ニ關シテハ第二條ハ表決ニ参加セスベキヤ
 他ノ問題ニ關シテハ第二條ハ表決ニ参加セスベキヤ
 侵略ノ一切ノ場合及之ニ依ル所定ノ平和ニ對スル脅威
 一一致ノ決定ハ外交の經濟的乃至軍事の強制措置ノ存
 決定及一切ノ外交の經濟的乃至軍事の強制措置ノ存
 新加入ノ決定ハ外交の經濟的乃至軍事の強制措置ノ存
 亦必加入ノ決定ハ外交の經濟的乃至軍事の強制措置ノ存

三月十四日「イヌベスチヤ」ハ「イエ、コロ、クイン」
 受ノ一國ヲ安全保障機構ニ於ケル長手付テ「ト
 系アル部分ハ左ノ通りナリ。文中「ヤルタ」會議決定ニ
 安全保障機構會議ニ於ケル中央ハ原則トシテ常任理事國五
 常任理事國ハ左ノ二場合ニハ適用ヲ除外セラル、而シテ此ノ場
 合ニ於テハ紛争當時常任理事國ハ常任理事國ト雖モ表決ニ参加セ
 ザルモノトス。
 第八章第一節ニ依ル表決案ノ場合「ダンバートン」
 オトクス。第八章第一節一分争ノ平和的解決」ニ關

理事國四分争事案タルトキハ議決ハ得テ、常任理事國及全
 本トシテ七常任理事國タルニ必要ナル數ノ非常任理事國ニ依リ
 爲サルベシ、理事國四分争事案タルトキハ議決ハ得テ、常任理事國及全
 常任理事國四分争事案タルトキハ議決ハ得テ、常任理事國及全
 常任理事國四分争事案タルトキハ議決ハ得テ、常任理事國及全
 常任理事國四分争事案タルトキハ議決ハ得テ、常任理事國及全
 常任理事國四分争事案タルトキハ議決ハ得テ、常任理事國及全

RB'-0023

0193

右「ヤルタ」會談ニ於テハ一ノ秘密協定締結セラレタリ
 右秘密協定ハ白露及「ウクライナ」兩共和國ヲシテ新國際機
 構總會ニ代表セシメントスルルルルルルルルルルルルルルルル
 支持スベキヲ約シタルモノナリ。該ハ米ノ三票要求ヲ支持スベ
 キコトヲ約シタルモノナリ。
 右秘密協定ハ三月下旬ニ至ル迄嚴秘ニ附サレ「ステイニア
 ス」スラモ之ヲ知セザリシ趣ナル處（註二）案港會談米代
 表團ノ下打合ノ席上「ルースベルト」ヨリ初メテ事件ヲ發表
 セル結果然問題トナリタル爲米國政府ハ「事實ノ部分」的發
 表ニ因リ傳達セラレベキ印象ヲ矯正スル爲「四月三日」ス
 テ「イニアス」聲明ニ事件ニ關スル米代表團ノ最後の態度決
 定ニ先チ三月二十九日白聖節ヨリ左ノ聲明ヲ發表セリ。
 「ヤルタ」會談ニ於テ代表團ハ聯合會ノ案港會談ニ於テ「
 ウクライナ」及白露共和國ヲ新國際機構ノ總會ニ代表セシ
 ムルノ問題ヲ提起セント希望ヲ表明セリ。「ヤルタ」會
 談ニ於ケル米及英代表團ハ該代表團ヨリ案港會談ニ於ケル
 聯合會ニ於テ提起セララルル場合ニ於テハ之ヲ支持スル
 様妥請セラレタリ。彼等ハ右ニ同意セリ。然レドモ米代表
 團ハ聯合會ニ於テ提起セララルル三票ヲ有セシムベキコトニ同意ス

0126

英及蘇代等ハ米及其「協定」
 ルコトニ對シテ「ヤルタ」ニ於テハ「ヤルタ」ニ於ケル此等
 ノ會談ハ案港會談ニ對シテ「ヤルタ」ニ於ケル此等
 テ最良の決定ノ結果ヲ得ラルルヤ小國側ハ之ヲ以テ秘密ニ於ケル
 右秘密協定ノ存在ヲ知ラルルヤ小國側ハ之ヲ以テ秘密ニ於ケル
 發言ヲ増大セントスルルヤ小國側ハ之ヲ以テ秘密ニ於ケル
 手摺ニ於ケルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル
 キヲ豫見シ又「支那」ニ對シテ「案港會談」以上ノ問題トナルベ
 級ゼラルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル
 協定内容ガ長短ニ「二月三十日」前計畫止方期守シ居ルモ
 ルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル
 ンデン「バートン」「スラモ」「ミット」「ダンバートン」
 於テ提議セラレタル「スラモ」機構ノ總會ニ於ケル各等ノ主權平等
 ヲ破壞スルガ如キ提案ニ「強ク反對ス」ト發表スル等内外ニ
 於テ不利ナル反響ヲ惹起セリ。（註三）茲ニ於テ米國ハ三票

0125

RB'-0023

0194

ル蘇聯代表ハ白露及「ウグライナ」兩共和國ハ新國際機
 構ノ原締盟國タルヘキコトヲ提案セリ。之ハ桑港ニ會同
 スル聯合國ノ審議決定スヘキ問題ナリ。蘇聯政府カ此ノ
 於ケル米國代表ハ共同ノ敵ニ對スル不撓ノ抵抗ニ於テ
 等共和國ノ苦難ニ耐エタル英雄的役割及彼等ノ力戰ノ遂
 行上多クハ蘇聯ノ提案カ桑港ニ不屈ノ精神ヲ深ク尊重シ
 政府ハ斯レキコトニ同意セリ。然レトモ「ヤルタ」ニ於
 テハ此等共和國ノ桑港ニ同意セリ。然レトモ「ヤルタ」ニ於
 テハ協定モ爲サレサリキ、斯ル事態ニ於テ「ヤルタ」ニ於
 ケル米國代表ハ米國力總務ト信シタリ、蘇聯及英國代表
 ハ米國政府カ提起スルニ於テ「ヤルタ」ニ於ケル
 三票ヲ附與スヘキ提案ニ於テ「ヤルタ」ニ於ケル
 三票ヲ附與スヘキ提案ニ於テ「ヤルタ」ニ於ケル
 案ノ於ケル復數投票ヲ求ムルハ米國代表
 爲米國ノ部分的發表ニ因リ傳達セラルヘキ印象ヲ矯正スル
 爲米國ノ部分的發表ニ因リ傳達セラルヘキ印象ヲ矯正スル

納決定ニ先チ公ノ發表爲サレタリ。
 (中略)
 桑港會議ノ召集ハ依然トシテ「ダンバートン」カ「クス」
 學徒ナリ、新編案論合議會ニ於ケル表決ニ關シテ
 ル是カ主權平等ノ原則ヲ發見スルモノナリヤ否ヤハ「ダ
 ンバートン」カ「クス」學徒ニ於テ發明セラレタル一般
 的原則ノ適用及解釋ハ會議自體カ之ヲ決定スベキモノナ
 ルト司業會議ガ之ヲ決定スベキモノナリ、與言スレバ桑
 港會議ハ無ク觀察論合議會ノ詳細ナル考成ニ關スル多
 數ノ提案ニ付決スベシ、而シテ是ガ如何ナルモノナル
 ヤハ之ヲ知ルコトヲ得ズ、最後尙考成ハ聯合國ニ依リ其
 ノ實習手續ニ從ヒ通過セシメラルベク其ノ結果ハ將交
 ノ機算ヲ除去セントスル此ノ章大ナル努力ハ全會一致ノ
 承認ヲ受クル果明ナルベシト希望シ且信ズルモノナリ。
 (注四) (注五)

而シテ一ステイニヤスハ前記聲明發表後記者團トノ間ニ
 左ノ如キ質疑應答ヲ行ヒタリ。
 問 大統領カ米國ノ爲ニ三票ヲ要求セスト決定シタルコトハ
 蘇聯ノ提案ニ對スル米國ノ支持ニ影響ヲ及ボスヤ。
 答 否、大統領ハ先般ノ聲明ニ於テ此ノ點ハ明確ナランメ居
 レリ。
 問 聲明ノ如何ナル部分カ協定ノ發表セラレサリシ理由ヲ説
 明セルモノナリヤ。
 答 協定ノ發表セラレサリシハ就中大統領カ米國代表團下ノ
 間ニ本件ヲ検討スルノ機會ヲ有シタキヲ希望セル爲ナリ。
 (註六)
 問 聲明ノ終末ニ一慣習的手續ニ從ヒトアルモ右ノ如クナ
 ルコトナリヤ、一國一票ヲ意味スルモノナリヤ。
 答 右ハ米國カ一票ヲ投セル「ホフ」ト「スプリング」ノ聯合
 國救済再建機關、一ブレト、タツツ等ノ他ノ聯合國會
 議ノ通常ノ手續ヲ意味ス。
 問 米國代表團ハ米國カ蘇聯ノ三票要求ヲ支持スヘキヤ否ヤ
 答 多數決ニ依リ決スルヤ。
 問 米國代表團ハ未タ其ノ問題ヲ審議シ居ラス。
 答 原案ニ關スル原案參加國ノ意味スルヤ。

答 蘇聯ニ共和國ノ桑港會議參加ニ關シテハ「ヤルタ」ニ於テハ協
 定セラレタルコトナシ。
 (註二)
 四月三日華府發五五五 符電ハ表決權增加ニ關スル協定ニ付テハ先
 通紐育一ヘラルド、トリビニ「カ曝露スル迄」一スル「ル」
 「チ」及通譯者以外ニ知ル者無ク「ステイニアス」一「グル」
 「マ」ク「リ」一「シ」ニ等サヘ全然關知セス「ステイニアス」ノ如キハ
 三月下旬迄右秘密協定ノ存在ヲ知ラズ當時國務省主宰ノ「ラ」チ
 放送ニ於テ一國一票ナル旨ヲ説キ「グル」一「等」モ同様趣旨ヲ放送
 「シ」タル程ニテ桑港會議米代表五名ハ三月二十三日「ル」ズ「ベ」ル
 「ニ」會見シタル際初メテ秘密協定ノ存在ヲ知ラサレタル由報シ居
 「リ」ニ。
 (註三)
 米國ノ復選投票權要求拋棄ニ關シ四月四日「ヘ」ラルド、トリビ
 「ニ」社説ヘ右措置ヲ以テ現實情勢ヲ認識セル健全ナル政策ナリト
 「シ」蘇聯ノ十六票ノ要求ハ馭過シ得ストハ云ヘ將來六十餘國ヲ網羅
 「ス」ヘキ總會ニ於テ二票乃至三票ヲ餘分ニ得ルコトハ左シタル實益
 「ヲ」齎ラササルヘク加フルニ米國ハ比律賓、秋瑪、英國ハ自治領諸
 「國」ノ表決ニ期待ヲ感ケ得ヘキニ付表決問題ハ餘リ重要ナラス云々
 「ト」論シ居レリ。

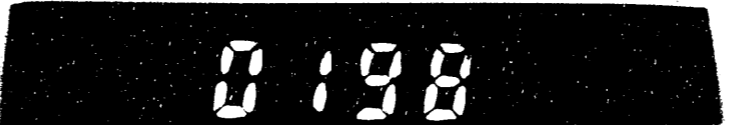


「タ」バーオン、オーグス、併案ニ對スル各國修正案
佛蘭、桑港會議共同主席團トシテ招請セラレタルモ之ヲ拒絶
シタル處石ハ佛蘭ガ「タン」バートン、オーグス、及「ヤルタ」
會議ニ於テ決定ヲ見タル後、後繼議定ニ兵ノ表決問題ニ關シ、獨
自ノ見解ヲ有シ桑港會議ニ於テ石ニ關スル「タン」バートン、
オーグス、及「ヤルタ」會議決定ニ對シ、方提議スルコトヲ留保
ストノ理由ニ塞クモノトシテラレタル、三月一日「ノイエ」チエ
「トリツ」ヘ、ツアイトンク「バスター」ナハリヒテン「倫敦
特電」ノ「シ」ナラスト、歐、勞、誌、第六號所載「エム、ニユラ」エ
「桑港會議」ト佛蘭西ト題スル論文ハ佛蘭西ハ桑港會議招
請狀ノ署名ヲ拒絶セリ、右ト題ガ「タン」バートン、オーグ
ス、提議ニ若干ノ反對ヲ有スル、以テ何ノ主權國ト共ニ完全
ナリ連帶責任ヲ取リ得ストノ理由ニ基クモノナル處、英、全
米、三國ハ佛蘭西ノ招請狀署名参加ノ如何ニ希望スルコトモ「クリ
シヤ」會議ノ決定ヲ裁断スル所ナリト論シ居ル、
桑港會議ノ修正案ハ「サン」バートン、オーグス、及「ヤルタ」
決定ノ變更乃至修正ガ審議セラレ、オーグス、提議及「ヤルタ」
正提議、兩者得ベキヤニ論シ居ル、
六日記者會見ノ際、一記者ヨリ西大閣ノ生シタルモ、ノ如ク四月

0134

(註四)
「リップ」マン「ハ」ウクライナ「及」白露ニ對スル蘇聯ノ表決權
要求ノ妥當性如何ハ右兩國カ國家主權ヲ保持スル眞ノ獨立國ナ
リヤ否ヤニ依リ決定セラレ、抑々兩國カ自ラノ發意ヲ以テ國
家トシテ承認ヲ列國ニ求ムヘキナリ、尙「ル」ズ、ト稱シ
ト「カ」ラ未タ主權性ノ曖昧ナル右兩國ノ參加ヲ認メ法律の矛盾ヲ
ナシテ迄兩國ノ主權確立ヲ助長スルカ如キ態度ヲ採リ他方「蘇
白露」、一ウクライナ「三ヶ」國ニテ表決權三ヲ有スル理由トシ
テ米、一國ニテ三票ヲ得ントシ、ツツアルカ右ハ單ニ法理上ノ根據
ヲ缺クノミナラス政治的ニモ右「H E R」特電)
(註五)
此ノ點ニ關シ三月三十日ノ記者會見ニ於テ記者ヨリ「グリ」シヤ
協定成立後既ニ四月七日ヲ經過セル旨ヲ指摘セルニ對シ「ステ」
テイ、ニアス「ハ」右協定カ公文書中ニ發表セラレサリ、ハ「ヤル」
タ」ニ於テ爲サレタル決定ハ三國カ自ラ行動ヲトリ得ルモノニ
限ラレタルカ爲ニシテ此ノ問題ハ後刻全聯合國ノ會議ニ於テ初
メテ爲サレ得ヘキ決定ナリト説明シ居レリ。

0133



(一) 「ダンバートン」の修正意見ヲ有シ居リ右ノ中「カナダ」ノ修正案(註七)ニ對シテハ變ニ述ベタル所ナルガ其ノ他ノ諸國ノ修正案ノ主ナルモノ左ノ通(註八)

(1) 條修正案
「ボイル・ボンクイル」ヲ長トスル十八名ヨリ成ル特別委員會ニ於テ作成セラレ三月十六日聯合國ニ對シテ送付セラレタル「ダンバートン」オイクスニ對スル條修正案(註九)ニ對シテ(註十)

「國際機構案」ニ對スル條修正案(A.O.P.電ニ依ル)

「機構」ノ自的
「國際政府」ニ於テハ條約ガ其ノ署名國ヲ拘束シ且各國ニ依ル條約ノ尊重ガ國際秩序ノ本質的條件ヲ構成スルコトト同様紛争ノ解決方法及正義ニ從ツテ考慮セララルベキコトヲ明記スルコト不可
「機構」ノ締盟國
「國際政府」ハ新機構ノ本機構ヘノ加入要件中ニ新締盟國間ニ或程度ノ政治的親善及理想ノ共有點ノ存スベキコトヲ加フルコト緊急ナリト認メ機構ヘノ参加ハ中立法規ニ抵觸スル約ヲ含

RB'-0023

0199

「弱」化セシムルガ如キ如何ナル最終的協定ニシテ四大國ハ之ヲ一致見解シテハ米露ガ招請ニモ如何トモ自ガ終始ニ對シテ「來」リタイニガ如ク榮港會談ハ「協」定スルベキ聯合會議ニ上ニ置キ「答」前記ノ通ナル旨ヲ強調スルニ對シテ「同」答ハ本條及「港」會談ニ對シテ「案」四本條ニ對シテ「差」ノ意味ニ修正案ヲ得ベキヤト間ヒタル目由ヲ有スルモノナリ

有スベシ
 安全保障委員會、總會
 非常任務、防衛ニ當ルニ充ツベキヲ至當ト認ムハ、
 國際秩序ノ維持ニ於テ、諸國ニ對シテハ、ヨリ廣汎ニ本機
 構、業務ニ協力シ得ル可能性ヲ具フベシ
 安全保障委員會ニ於ケル表決手續
 認メザルニ非ザルモ、現行ノ規定ノ有スル處、
 任事ノ難ナリト認ム反シテ、國際機構ノ全體ノ行動ヲ阻動スルコト
 ハ、不可能ナリト認ム依テ、國際機構ノ意見トシテハ、投票手續ノ
 繼續ヨリ、強行ニ訴スルコトヲ許サザルモ、間ニ區別ヲ設ケ、
 強行行使ニ對シテハ、資格ノ制限ナシトスルヲ適切ナリトス
 國際政府ハ、過半數ヲ以テ決セラルベキコトヲ勸奨ス之ニ對シテ、
 國際ノ全會一致ヲ含ム條件付過半數ノ表決ハ、決定ノ際ニ要ス
 國際的武力
 案スル修正ハ、安全保障委員會ニ委ネラルベキ武力
 行使ニ對シテ、國際政府ハ必要ニ應ジ、夫々相應ノ安全保障地帯ニ

六
 地帯的取返
 第二項ハ、安全保障委員會ハ適當ナル場合、其ノ權限ニ屬スル強
 行行動ノ爲メ、必要ノ取返行動ヲ行ハシメ、
 前項ハ、安全保障委員會ノ執行力ニ對シテハ、
 領域的取返ノ義務ヲ負フベシ
 一、尤モ本機
 構ハ、左ノ如ク執行スルコトヲ裁可シ、
 非ズレタル場合ニモ、規定スル緊急指
 令ニ依リテ、必要ノ取返行動ヲ行ハシ
 コトアルベキ場
 合ニ付、出來得ル限
 リ速力ニ安全保障
 委員會ノ少クトモ半數ハ、經濟的
 佛國政府ハ、社會的協力

三
 安全保障委員會、總會
 非常任務、防衛ニ當ルニ充ツベキヲ至當ト認ムハ、
 國際秩序ノ維持ニ於テ、諸國ニ對シテハ、ヨリ廣汎ニ本機
 構、業務ニ協力シ得ル可能性ヲ具フベシ
 安全保障委員會ニ於ケル表決手續
 認メザルニ非ザルモ、現行ノ規定ノ有スル處、
 任事ノ難ナリト認ム反シテ、國際機構ノ全體ノ行動ヲ阻動スルコト
 ハ、不可能ナリト認ム依テ、國際機構ノ意見トシテハ、投票手續ノ
 繼續ヨリ、強行ニ訴スルコトヲ許サザルモ、間ニ區別ヲ設ケ、
 強行行使ニ對シテハ、資格ノ制限ナシトスルヲ適切ナリトス
 國際政府ハ、過半數ヲ以テ決セラルベキコトヲ勸奨ス之ニ對シテ、
 國際ノ全會一致ヲ含ム條件付過半數ノ表決ハ、決定ノ際ニ要ス
 國際的武力
 案スル修正ハ、安全保障委員會ニ委ネラルベキ武力
 行使ニ對シテ、國際政府ハ必要ニ應ジ、夫々相應ノ安全保障地帯ニ

RB'-0023

0200

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

前ヨリ効力スル用意アリ且ヨリ良キ懸案ニ際シテ其ノ權
ノヨリ大ナル制限ヲ承認スル用意アリ然レドモ佛國政府ヘ
ノ境間ニ在リテハ平和ノ維持ハ待クニ入區向ノ和合ニ係ルコ
トヲ認メ、一ノ場合ニ斯ル和合ヲ危クスルコトアルベキ懸案ヲ
避クベシ

最モ顯著ナル國家ガ出席スルト云フ事ニ於テ其ノ權限ヲ拘束
力アラシムルコトニ依リ、前會ノ權限ヲ強化シテ其ノ權限ヲ
ス、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
リト認ムル一切ノ問題ヲ審議シ、緊急ノ場合、直接・間接
ナ、言ニ、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間
ハ、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
六、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
切、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
ル、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
全、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
妥、佛國政府ハ一切ノ經濟的・社會的・平和的・直接・間接
以



國ノ專制ニ對スル小國ノ「チヤムピオン」トシテ登場ス
 ルヲ拒絶セリ。即チ彼ハ「ダンバートン」トシテ提
 案ノ批評家ガ豫メ彼ニ謙遜シタルガ如キ劇的役割ヲ演ス
 ルコトヲ拒否セリ。其修正案ハ平穩ノ主ナル責任ハ
 之カ保持ノ力ヲ有スル大國ニ存スルノ原則ヲ認ムル
 コトニ於テ原案ニ一歩ヲ進メ居レリ。修正案ハ全會一
 致ノ原則ニ對シテハ安全保障シツツ現狀ニ於テハ軍事の行動
 ノ發動ニ對シテハ安全保障シツツ現狀ニ於テハ軍事の行動
 致ニ依ルノ外ナキ事實ヲ肯定シ安全保障シツツ現狀ニ於テハ軍事の行動
 續ニ關シテ決定小勸告トシテ國際幾種ハ大國ノ侵略ヲ試過スル
 二關スル修正案ハ新國際幾種ハ大國ノ侵略ヲ試過スル
 モノナリト修正案ハ新國際幾種ハ大國ノ侵略ヲ試過スル
 案ハ地政的安全保障取極ノ發動條件ニ關シテ又修正
 結セラレ且安全保障取極ノ發動條件ニ關シテ又修正
 援助條約ニ基ク安全保障取極ノ發動條件ニ關シテ又修正
 二ハ地政的安全保障取極ノ發動條件ニ關シテ又修正
 此ノ點ニ對スル修正案ハ桑港ニ於テ問題トナルヘクモ
 ラク地政的安全保障取極ノ發動條件ニ關シテ又修正
 支持者ニ依リ反對ヲ受クルコトアルベキモ此ノ點ニ關
 ル蘇聯ノ態度ニモ結局聯合國ニ依リ認めララルコト

(註六)
 桑港會議ノ「タンバートン」モ亦桑港會議開催中新聞記者ノ問ニ
 答ヘ肯定的回答ヲ與ヘ居レリ

(註七)
 「ロンドン」タイムズ「オタワ」特派員三月二十四日
 發電報ハ加奈陀下院ニ於テ表明セラレタル諸見解ヲ綜合
 スルニ桑港會議ニ關シテ加奈陀ノ態度ハ
 (1) 強國間ノ協調保持セラレベキコト
 (2) 第二流國一並モ軍事の、經濟的及外交的責任ヲ負フヘ
 キ決定ニハ直接ノ影響ヲ有スベキコト
 (3) 經濟社會理事會ノ機能ヲ重要視スルコト
 (4) 要約ヲ待ベント報ジ居レリ

(註八)
 多數少國ハ桑港會議ニ於テ修正案ヲ提出スルコトトナル
 ベキニ付此等諸國ノ修正案ニ關シテハ後ニ議リ茲ニハ
 港會議開催迄ニ新聞ニ報道セラレタル諸國修正案ニ限定
 ス

(註九)
 「エコノミスト」ハ修正案ヲ批評シ「ドゴール」ハ大

ニ對スル格別ノ援助ナリト看做シ得ベシ、國際機構存スル限リ其ノ下ニ於ケル二國間條約ハ不與ナリトノ反對論モアリ得ヘキモ聯盟ノ衰レナル經驗ハ未タ吾人ノ記憶ニ新ナリ、素ヨリ新國際機構ハ其ノ任務ヲ充分ニ果スヘシト期待セラシムルモ今次大戰ニ餘リニモ苦杯ヲ嘗メタル英、佛、「チ」ノ四國ハ自國ノ安全保障ヲ斯ノ如キ期待ノ上ニ置クコトヲ得ズ

而モ同盟援助ノ關スル限リ各國ノ個別的義務ノ履行ハ集國協定ニ基ク義務ノ履行ニ比シ遙ニ迅速ナルハ經驗ノ證スルトコロナリ

以上ニ依リ佛蘭西政府ノ崩壊スル危惧ハ正當ナル理由ナキモノト思考セラシムル者ノ間ニ形式的調整ヲ必要トスルニ於テハ二國間條約ノ存在及之等條約ハ新國際機構ノ一般的目的ニ合致スルモノナルコトヲ公式ニ認ムル法議ヲ桑港會議ニ提案スルノ外ナルコトヲ公式ニ認ムルガ之等條約ノ價值ヲ認メ乍ラ前記決議採擇ニ反對セルカ如キハ之ヲ答認シ得ズ云々ト論ジ居レリ

四 和蘭修正案

和蘭政府ハ聯合諸國ニ對シ「ダンバートン、オークス」提子ハ左ノ通ナル旨報セラレ居レリ。

(一) 安全保障理事會ノ決定ニハ理事會ニ議席ヲ有スル中小國過半数ノ同意ヲ要ス

(二) 大國ニ次ギ重要地位ヲ有スル國ハ適當ニ安全保障理事會ニ加入セラシムルヘシ

(三) 如何ナル國モ拒否權ヲ有セザルベク又正當ナル手續ヲ拂フ決定ニ對シテハ如何ナル國モ自由ナル解釋)ヲ下シ得ザルベシ、第三國ニ對スル軍事制裁ノ場合例外ヲ設クベシ(註十一)

(四) 國際司法裁判所設立ノ爲メ機關ニハ平和愛好國全體ノ參加ヲ希望ス

(五) 平和機構ノ原則並ニ目的ニ反セザル限り地政的協定ハ認メラルベシ

(六) 國際平和機構ノ警察機關トシテ軍事參謀委員會ヲ設立ノ場合ニハ總テノ國ハ同委員會ニ其ノ管轄事項ニ關スル問題ヲ自由ニ提起シ得ベシ(二月二十七日倫敦JG特電)

國際的知的及精神的加力ヲ擔當スル特別ノ機關ヲ設置ス
 米州諸國ノ安全保障理事會ニ適當ナル數ノ代表ヲ送ル權
 利ヲ確保スルコト
 米州諸國間ノ紛争ハ國際機關ニ依ルコトヲ米州的方法
 及機關ニ依リ處理スベキコトヲ希望ス(三月六日)トリス
 事ニ「共同點」

(註千一)
 「フアン、クレツフェン」ハ米州會議ニ出席ノ爲メ
 港ニ到着スルヤ和蘭ハ「ヤルタ」ニ於テ決定ヲ見タ
 ル侵略問題及兵力ノ使用ニ關スル大國ノ拒否權ハ之
 ヲ削除スルコトヲ要求スベシ尤モ多數國家ガ石方式
 ヲ支持スルニ於テハ之ヲ認ムルノ外ナシト述ベタル
 越ナリ(四月二十四日)米州會議「エービー」
 米州諸國修正案
 三月上旬「メキシコシティ」ニ於テ開催セラレタル米州外
 相會議國際機關委員會ハ五日國際安全保障機關ニ關スル決
 議案ヲ採擇セル處其ノ要旨左ノ通
 「ダンバートン」ホークス」提案ハ公正ニシテ平和的世界
 秩序ヲ建設シ一般ノ國際機關獨立ニ費重ナル貢獻ヲ爲スモ
 ナルモ幾多修正ノ餘地アリ、來ルベキ米州會議ニ於テハ次
 ノ諸點ニ付考慮ヲ加フルコト必要ナルベシ。
 (一) 國際機關ニハ一層廣汎ナル國際的普遍性ヲ與フベキコト
 (二) 「ダンバートン」ホークス」提案ノ世界機關ノ原則及目
 的ハ更ニ具體的ニ闡明スルノ要アルコト
 (三) 總會ノ權限ニ關シテハ更ニ具體的ニ規定スルコト
 (四) 國際司法裁判所ノ權限及機構ヲ更ニ擴大スベキコト

(前略) 領土の信託制度ニ關シテハ「ヤルタル」ニ代表セラレタ
 ル諸國政府ハ中華民國政府及「フランド」ニ代表セラレタ
 港會議ニ提出スベキ一般の機構ノ一部トシテノ信託制度機
 關ニ關スル提案ノ作成ニ努力スルコト適當ナリト思ハレタリ。
 此ノ信託制度機關ハ前大戦後委任統治ニ付セラレタル地域、今
 次戰争ノ敵國ヨリ奪取セラレルベキ地域中將來合意セラレタル
 域及自發的ニ信託制度ノ下ニ置カレベキモノト考テラレタル
 定ノ地域ニ關シテハ「ヤルタル」ニ於テモ討議セラレタルコト
 (後略) 又、英領以前ハ「ヤルタル」ニ於テモ討議セラレタルコト
 (註十二) 「ダンバートン・オークス」ニ於テハ英領ノ希望ニ依リ右問題
 ハ「ダンバートン・オークス」ニ於テハ英領ノ希望ニ依リ右問題
 シ「レイトン」英領大臣ハ右ニ關シ米當局ニ對シ「英米」カ
 委員會ノ例ニ依リ「大ニ」國際諮問機關ノ設置ヲ主張シタル
 原案ヲ固執シタル爲ニ交涉妥結ニ至ラザリシ趣ナリ(二月二十
 日華府AFP)

(一) 領土の信託制度
 「ダンバートン・オークス」提案中ニハ聯盟規約第二十二條
 所定ノ委任統治制度ニ相應スル規定ナカリシ處本件ハ「ヤル
 タ」會議ニ於テ採リ上ゲラレ同會議ニ於テ左ノ如ク決定セラ
 レタリ。(註十二)
 (イ) 米、英、露三國ハ「支兩國」ト協議ノ上信託制度ニ關スル
 提案ノ作成ニ努力スルコト
 (ロ) 信託制度機關ハ「ヤルタル」ニ於テ一部ヲ構成スベク本件提案ハ
 信託制度ニ提出セラレルベキコト
 (ハ) 信託制度ニ付セラレタル地域ハ
 (ニ) 前大戦後委任統治ニ付セラレタル地域
 (ホ) 今次戰争ノ敵國ヨリ奪取セラレタル地域中關係國ノ合意
 (ヘ) 自發的ニ信託制度ニ付セラレタル地域
 (ニ) 自發的ニ信託制度ニ付セラレタル地域
 (イ) 確定ノ如何ナル地域ヲ信託制度ニ置クヤハ將來「聯和會
 議」ノ「決定」ニ依リ發表セラレタ
 以上ノ「四月三日」ノ「決定」ニ依リ發表セラレタ
 ル所ナルガ右「明」ノ關係部分左ノ趣

認テ要スル旨ヲ規定シ居レリ、從テ多數ノ法學者ハ主タル
聯台及同盟國ハ委任統治地域カ規約第二十二條ノ適用ヲ受ケ且
レタルモ委任統治地域ノ下ニ置カレタルニ對シテ委任統治
同盟國ハ退場スルニ至リテ見解ヲ支持シ居レリ、何
カレニセヨ戰後日本カ此等地域ニ對シテ委任統治
カテシムル爲メ再考セラルルニ至ルヘシ、委任統治地域
今ヤ急速ニ米國ノ占領スルコトニ至リ、委任統治條項又ハ國際
域ニ對スル專政施行ニ關スルコトニ對シテ現行ノ法律及慣習カ
依然有效ナリトスニ止マリ居レリ、對シテ現行ノ法律及慣習カ
戰後此等島嶼ニ於ケル新權威者ノ爲メ第一ノ仕事ハ日
本政府ノ負擔ニ於テ此等地域ニ在ル産業企業、全部
又ハ大部分ヲ日本ニ送還シ、此等企業ナリ、ラ無償ニ
テ其ノ管下ニ置キ之ヲ擔保シ、最モ強ク關心ヲ有シ、米國
ハ此等島嶼ニ對シ最モ和會議カ本件ニ關心ヲ有シ、米國
一ノツク事ハ是認シツツ、一九四四年三月九日下院外交委員

RB'-0023

0207

石 玆々戰後ノ殖民地問題ヲ如何ニ處理スヘキヤニ關シテハ國
聯會ノ有利ナル展開ト共ニ其ノ數ヲ増シツツアル處此等意見
ノ主ナルモノ左ノ通。
(一)「ハチングストン・ギルクライスト」(Huntington Gilchrist)
(二)「國際聯盟事務局主任」(Huntington Gilchrist)
日本ノ眞珠灣攻撃ノ性格ハ日本カ其ノ委任統治領ニ基地ヲ
設定シ居リタルコトヲ證スルモノニシテ新カ設立セラレ、然
レドモ該領域ノ問題トナルハ新委任統治制度カ設立セラレ、然
ヤ、當該領域ノ有ルモノハ如何ニ變更セラレ、此等ノ問題
爲スヘキ權限アルハ如何ニ變更セラレ、此等ノ問題
關シテハ主タル同盟國及同盟國ノ爲メ此等島嶼ニ對シテ
權限ヲ拋棄シ主タル同盟國及同盟國ノ爲メ此等島嶼ニ對シテ
レドモ委任統治條例ノ適用ヲ受ケ且委任統治地域ノ下ニ置
ニシテ先進國ハ委任統治條例ノ適用ヲ受ケ且委任統治地域
各委任統治條項ハ委任統治條例ノ適用ヲ受ケ且委任統治地域
承又

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(イ) 植民地問題ハ、リツブマシニ於テ討議セラレ桑港會議ニ於テ決定ノ運ニ至ル儀様ナルカ石ハ極メテ複雑ナル事態ヲ包藏スルニ付米國トシテハ非獨立民族ニ對スル米國ノ態度ヲ豫メ確立シ置ク要アリ

(ロ) 「ウォルター・リツブマシ」ニ於テ討議セラレ桑港會議ニ於テ決定ノ運ニ至ル儀様ナルカ石ハ極メテ複雑ナル事態ヲ包藏スルニ付米國トシテハ非獨立民族ニ對スル米國ノ態度ヲ豫メ確立シ置ク要アリ

米ハ「ウイリッピン」「アラスカ」「ハワイ」「パナマ」(運河地帯)「ブエノスエラ」「グアテマラ」島ノ諸領域ヲ支配スルモノナルカ石各領域ノ「ステータス」ハ必ラスシモ同一ナルサレテ之ヲ一般ニ規定スルコトハ容易ナラス米ノ屬領問題解決ニハ「アイリッピン」「ニコト」立ヲ附與スル行方ト「アラスカ」「ブエノスエラ」「グアテマラ」包含スル遺方トノ二方法アルモ「ユニオン」中ニ

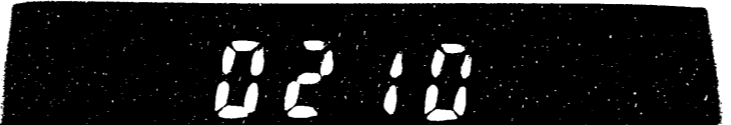
地問題ニ關スル宣言カ如上諸屬領ニ對シ米人ノ抱懐スル理想並ニ米國ノ政策ニ合致スルヲ要スヘキ處如上屬領ノ特殊事情ヲ「カバール」シ得ル宣言ハ基礎ハ頗ル困難ナリ故ニ米トシテハ特殊地域ニ安當シ得サル一般規則ノ成文化ヲ避ケ單ニ植民地ニ關スル諸問題機關ヲ設置スルニ止メ聯合諸國ニ相當ノ權限ヲ留保スル權取計ヲヘキナリ予ハ桑港會議ニ於テ植民地問題ヲ終局的ニ解決セントスル案ニハ反對ナリ

(イ) 植民地問題ハ、リツブマシニ於テ討議セラレ桑港會議ニ於テ決定ノ運ニ至ル儀様ナルカ石ハ極メテ複雑ナル事態ヲ包藏スルニ付米國トシテハ非獨立民族ニ對スル米國ノ態度ヲ豫メ確立シ置ク要アリ

(ロ) 「ウォルター・リツブマシ」ニ於テ討議セラレ桑港會議ニ於テ決定ノ運ニ至ル儀様ナルカ石ハ極メテ複雑ナル事態ヲ包藏スルニ付米國トシテハ非獨立民族ニ對スル米國ノ態度ヲ豫メ確立シ置ク要アリ

米ハ「ウイリッピン」「アラスカ」「ハワイ」「パナマ」(運河地帯)「ブエノスエラ」「グアテマラ」島ノ諸領域ヲ支配スルモノナルカ石各領域ノ「ステータス」ハ必ラスシモ同一ナルサレテ之ヲ一般ニ規定スルコトハ容易ナラス米ノ屬領問題解決ニハ「アイリッピン」「ニコト」立ヲ附與スル行方ト「アラスカ」「ブエノスエラ」「グアテマラ」包含スル遺方トノ二方法アルモ「ユニオン」中ニ

地問題ニ關スル宣言カ如上諸屬領ニ對シ米人ノ抱懐スル理想並ニ米國ノ政策ニ合致スルヲ要スヘキ處如上屬領ノ特殊事情ヲ「カバール」シ得ル宣言ハ基礎ハ頗ル困難ナリ故ニ米トシテハ特殊地域ニ安當シ得サル一般規則ノ成文化ヲ避ケ單ニ植民地ニ關スル諸問題機關ヲ設置スルニ止メ聯合諸國ニ相當ノ權限ヲ留保スル權取計ヲヘキナリ予ハ桑港會議ニ於テ植民地問題ヲ終局的ニ解決セントスル案ニハ反對ナリ

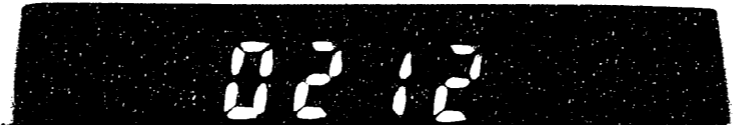


要望之且對日戰遂行上印度資源ノ全面的利用ヲ期待シ居レ
 團長「マヘンドラー」召遣ノ旨ノ報道アリ
 又米國ニ於テハ同國カ太平洋ニ於ケル植民地ヲ夫々其ノ本
 國ニ返還スヘキ使命ヲ有スルモノノ如ク看做サレ居ルニ對
 シ不滿ノ聲ヲ生シ植民地獨立論乃至國際管理論ヲ提唱スル
 モノアリ「亞細亞問題」ノ著者「ラチモア」ノ如キ
 ハ植民地ノ徹底的解放ヲ主張シ居レル處ニ對シ英、佛、
 和蘭ハ反對ヲ唱へ英國ニ於テハ右國際管理論ニ對スル代案
 トシテ本國、原任民及第三國ノ代表者ヨリ成ル地方的國際
 監視委員會ヲ設置スヘシトノ意見モ出テ種々論議セラレ居
 レリ
 然シナガラ輿論ノ大勢ハ依然人種的偏見乃至植民地ニ對ス
 ル古キ觀念ニ捉ハレ居リ植民地改革ハ之ヲ外見ノ形式ノミ
 ニ限リ政治及經濟ノ本質ニハ及ハサルヲ可トスヘシトノ說
 行ハレ居ル處植民地壓制ハ社會發展途上ニ於ケル危險ナル
 障礙物ニシテ同時ニ世界反動勢力ノ防壁ヲ爲シ居リ之ヲ撤
 廢スルノ要アリ。

「コロノリスカ」三月三十一日「植民地問題」
 演說シタル先週米國ノ前哨部隊會合ノ席上英植民帝國ニ關
 一般公衆ニ向ヒ演說シタル目前ノ總案ヨリ云ヨリ廣汎ナル
 植民相最近「渡米ガ英國ノ植民地統治ニ對スル米國ノ恒久
 的困難ニ對スル反駁ヲ促進シタルモノナルベシ」然レドモ
 植民相ガ英帝國植民地ノ將來ニ關シハ植民地問題ハ榮滿會
 現在ノ重要性質ヲ有シタリ何トナレハ植民地問題ハ榮滿會
 二於ケル重要議題ノ一ナリ
 本國新聞ニ於ケル指導報道ヨリ察スルニ米國政府ハ榮滿會
 議ニ於テ植民地ノ一般の命運ニ關シ或ル種ノ提案ヲ爲ス意
 圖ヲ有スルコト明カナリ
 右提案ノ内容ハ未タ分明ナラス然レドモ米國提案ノ背後ニ
 潛ム一般の理念ハ排他的帝國主義ノ理念ナルコト明ラカナ
 リ
 右ハ明白ニ委任統治制度ヲ再確認及全植民地領域ヘノ之カ
 擴大ヨリ植民帝國ノ全權及國際管理權ニ依ル之カ代置ニ
 至ル如何ナル措置ヲ感味スルヤモ知レス
 米國政府カ後者ノ適端ナル措置ヲ奨勵ニ考慮シツツアル筈
 ハナケレトモサレハトテ前者ノ措置以上ノモノヲ考慮シ居

地運テ植ニ相兼然真ア殖一任上共
 成其民對互有レ歴リ地ノ見統同
 如何地地統如的有ハハハハハ
 ニ進治統何見ス本國又ハ國又
 シ他治者何ニ一諸國ノ又ハ國
 テ自治信待奉什有最代植地指
 成達話者ハ効小公倍數ニ於成
 向之ヲ而多數ヲ主レ得ハキヤ
 抑制セ又一人ヲ有ヤツ如何ニ
 且確質ナル信託者ハ自治ノ
 發展ヲ爲
 此ヲス植民地人民ノ希望ニ全
 然反スルモノナリト信ス
 唯英國政府屢次ノ聲明ヲ繰返
 ルニ過キス
 一ノ管理ヲ行ハシメテ未ダ實
 任ヲ治領ヲ除キテ南方地域ニ
 一ノ植民地ノ利益ヲ專斷シ注
 意ノ見ヲ取ル得ル又ハ評議會
 一ノ植民地ノ利益ヲ專斷シ注
 意ノ見ヲ取ル得ル又ハ評議會
 一ノ植民地ノ利益ヲ專斷シ注
 意ノ見ヲ取ル得ル又ハ評議會

然レトモ今日吾人ハ責任ヲ有シ
 分擔ハ責任ハ之ヲ他ト分擔
 大佐ノ聲明ニ於テ植民地ノ利
 益ヲ專斷シ注シテ南方地域ニ
 一ノ植民地ノ利益ヲ專斷シ注
 意ノ見ヲ取ル得ル又ハ評議會
 一ノ植民地ノ利益ヲ專斷シ注
 意ノ見ヲ取ル得ル又ハ評議會
 一ノ植民地ノ利益ヲ專斷シ注
 意ノ見ヲ取ル得ル又ハ評議會



成セラルルノ危
 期的ニ國際機
 地問題ヲ公ニ
 若シ種民地同
 混染ノ形態ヲ
 コトナクシテ
 ヤニ集中シテ
 現在ノ状態ニ
 於テハ種民地
 問題ハ論争ノ
 中心トナルニ
 至ル

成セラルルノ危
 期的ニ國際機
 地問題ヲ公ニ
 若シ種民地同
 混染ノ形態ヲ
 コトナクシテ
 ヤニ集中シテ
 現在ノ状態ニ
 於テハ種民地
 問題ハ論争ノ
 中心トナルニ
 至ル

ルモ種民地統治者タル現實ノ智識ヲ缺如セル人々ニ依リ
 リ、而シテ委任統治委員會ハ常ニ保衛ノ大ナリシコトナ
 タリ、其ノ後設立セラレタル委任統治委員會ハ多ク非難ヲ受ケ
 前大戦後設立セラレタル委任統治委員會ハ多ク非難ヲ受ケ
 論ハソレ以下ノモノニ對シテ保衛セラルヘシ米國ノ與
 伊太利ノ種民地ハ委任統治トシテ保衛セラルヘシ米國ノ與
 若シ東阿那加ニ於テレリ、則チ保衛セラルヘシ米國ノ與
 者ハ東阿那加ニ於テレリ、則チ保衛セラルヘシ米國ノ與
 兩國トモ現在以上ニ種民地之責任ヲ負ハル共ニ同ク
 兩國トモ現在以上ニ種民地之責任ヲ負ハル共ニ同ク
 付ケラレ、其ノ種民地ヲ委任統治シ、又或ル國ハ種民地ヲ無
 本ノ委任統治諸島ニハ委任統治シ、又或ル國ハ種民地ヲ無
 カシ、或ル國ハ委任統治諸島ニハ委任統治シ、又或ル國ハ種民地ヲ無
 若シ「サウス」問題ニ解決ヲ與フモノニアルコトハ、種民地
 理的ニサウス問題ニ解決ヲ與フモノニアルコトハ、種民地
 域の委員會制度ノ擴大ハ日本及伊太利ノ種民地ヲ如何ニ處
 フニ代シ得ヘキモ、之ニ代替スヘキモノニアラス、何レニモ
 種民地ニ對シテハ、種民地ニ對シテハ、種民地ニ對シテハ、種民地

RB'-0023

0214

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(四) 英國ノ舊聯盟時代ノ委任統治制度ニ倣ヒタル莫然タル國際官
 理制度ヲ主張シ(四月七日H.E.R.特電)
 之ガ監視機關トシテ「カリビヤ」委員會議似ノ國際機關設置
 ノ提唱シ、即チ「英國現在ノ植民地」保全ニ重點ヲ置キ居ルモ
 其ノ他ノ英國政府ハ英國ノ植民地領ニ影響アル問題ガ桑港會議
 反對ナル旨ヲ明カニシ「イデーデン」モ亦議會ニ於テ桑港會議
 議ニテ植民地問題ガ討議セラレ「イデーデン」モ亦議會ニ於テ桑港會議
 ハ關係植民地トノ協議及議會ノ同意無クシテ變更セラレザル
 べき旨言明シ居レリ。而シテ又「アトリ」ハ印度ガ國際信

(三) 各國ノ態度
 (イ) 米國ノ態度
 米國ニ於テハ太平洋島嶼ノ領有ヲ主張シ居リ(註十三) 議
 會方面ニ於テモ「ワイヅワ」(紐育選出共和黨)ノ兩下院
 マンスタイン「ワイヅワ」(モンタナ)選出民主黨)ノ兩下院
 議員ノ如ク領有支持論アリ(四月十九日華府發A、P)又
 議員ハ下院海軍委員會ニ依リ日本ノ委任統治諸島ノ恒久的
 領有ニ關シ審議スベキ分科委員會ノ設立アリ、此等諸島
 ノ領有論ハ米國內ニ於テ相當ノ勢力ヲ有スルハ事實ナルモ
 「ワヅワ」四月十九日「モ指橋」セル如ク「紐育」ヘラルド、トリヴ
 ム「ワヅワ」四月十九日「モ指橋」セル如ク「紐育」ヘラルド、トリヴ
 米國トシテハ大西洋憲章ニ於テ領土の其ノ他ノ曾大ヲ求メ
 ザルノ公約ヲ爲シタル次第アルニモ繼ぎ結局米ノ重大利益
 ト大國洋憲章ニ依ル公約トノ間隙ヲ調整スル一方途トシテ
 國祭信託制度ナル原則ヲ掲グルコトナリタルモノナルベ
 シ、而シテ米國ノ國際信託制度案ニ關シ四月二十三日及二
 十五日H.E.R.桑港特電ハ左ノ如ク報シ居レリ。
 米陸海軍ハ米ガ太平洋島嶼ヲ取得スベシト主張スルニ對
 シ國務省ハ蘇、英其ノ他列國ノ利害ヲ考究スベシト爲シ
 其ノ間意見ノ一致ヲ見ザリシ處今般華府ニ於テ兩者間ニ

託制度下ニ置カレベキ可能性如何トノ問ニ對シ右ハ印度人
 自体ノ決議スルニ非問題ナリト答ヘ居レリ（四月二十四日英
 港發「路透社」）
 而シテ英帝國內ニ於テ南阿聯邦ハ西南「アフリカ」地方ノ
 委任統治制度ノ撤廢及之ガ南阿聯邦内ヘノ編入ヲ提唱シ居
 レリ。
 佛蘭西ヘ國際管理ガ樞軸國屬領ノミニ適用セラレルニハ異
 議ナキモ第一次大戦後ニ實現シタル委任統治地域全体ニ信
 託制度ヲ適用スルニハ反對シ居ルニ更ニ佛ハ印度支那
 一タカール」又ハ大西洋ニ於ケル領有諸島嶼ガ國際信託制
 度下ニ置カレザルベキニ關シ警戒シ居ルガ如ク見受ケラ
 レ桑港會議佛代表（Nassir）對シ佛帝國ガ國際管理下ニ置
 カレザルベキ旨訓令セリト報ゼラレ居レリ。（七日H E R
 特電）
 前記「ジュネーヴォ」ノ一段階ニ於ケル殖民地問題「ナル
 論文ヨリ察知セラルル如ク蘇聯ハ殖民地制度ノ撤廢ヲ支持
 スルモノト思考セラル、尤モ蘇聯モ自國領土ノ安全確保ノ
 軍事的要求見地ヨリ若干地域ノ管理ヲ主張スルコトハアリ

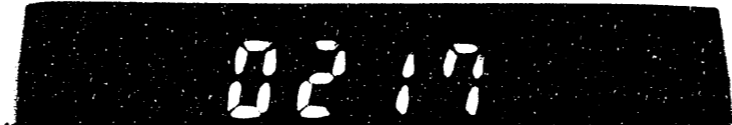
0169

得ベク四月二十六日桑港「ルイター」(Paul S. Rankine)
 ハ蘇聯ハ日本委任統治領中若干島嶼ノ米國管理ヲ認メタル
 ガ在亞蘇聯領ノ保全ニ重要利害ヲ有スル若干島嶼ニ關シ留
 保ヲ爲セリ、右ハ蘇聯ノ管理下ニ移サルル可能性アリト報
 シ居レリ。
 (34) 支那
 客年六月二十四日ノ蔣介石「ウオトレス」共同聲明ハ支
 那ノ植民地制度ニ關スル見解ヲ表明スルモノト認メ得ベキ
 處右共同聲明ハ太平洋ノ平和維持ノ一要件トシテ
 一現在隸屬亞細亞諸民族ノ自治ニ關スル基本的權利ノ承認
 及此等隸屬諸民族ニ對シ明確ナル實際的期限内ニ於テ自治
 ニ必要ナル準備ヲ整ヘシムル爲政治的、社會的諸分野ニ於
 テ各種ノ措置ヲ早期ニ適用スルコト」ニ在リナシ居レリ。
 (註十三)
 米海軍筋ニ於テハ米ハ硫黃島、一トラツク、一カロリン、
 一マインヤ、一バラオ」ノ諸島ハ同ヨリ日本ノ海軍ヲ要
 求スベシト信シ居リ假令右地域ニ對シ第三國介入ノ餘地ヲ許ス
 トモ其ノ行政ハ米ノシニ屬セラルベシトシ（三月三十日華府一
 ルイター）「Paul S. Rankine」ハ戰後強力ナル米艦隊保有ノ必要ヲ強調スルト共

0170

六 國際司法裁判所
 (一) 國際司法裁判所
 一、規定シ、國際司法裁判所ハ戰後國際機構ノ主要司法機關ニ
 構成スヘキモノトシ、且國際司法裁判所ハ憲章ノ一部ヲ成スヘ
 キ規程ニ從ヒ構成セラレ、且機能ヲ發揮スヘキモノトス、更ニ提
 案ハ國際司法裁判所規程ハ常設國際司法裁判所規程ニ適當ナ
 ル修正ヲ加ヘタルモノカ、又ハ常設國際司法裁判所規程ヲ基礎
 トシテ作成セララルル新規程タルヘキモノトス、從ヒ案會ニ
 於テ審議ノ基礎トナルヘキ國際司法裁判所ニ關スル案會準備
 ノ爲メ四月九日ヨリ華府ニ於テ七國ノ法律家委員會開催セラ
 レタル處右會議ノ大要左ノ通
 (1) 召集及參加國
 委員會ハ案會共同主催國ヲ代表シ米國政府ニ依リ召集
 セラレ、四月九日開會、四月二十日終了セリ。參加國ハ四十四
 國ナリ
 (2) 委員會ノ性質
 委員會ハ案會ニ於テ審議ノ基礎トナルヘキ國際司法裁
 判所ニ關スル草案ノ作成ニ當ルヘキモノナリ
 一、ステイニ、草案ノ記者會見ニ於テ法律家委員會ハ自由
 ニ報告ヲ爲シ得ヘキ、又其ノ任務如何トノ質問ニ答ヘ委員
 會ハ現行裁判所規程ヲ其ノ儘ト爲シ直クコト又ハ現在裁判

ニ米軍將士ガ亦ヲ以テ獲得セル戰格納基地中待ニ太平洋ニ敷在
 スル基地ハ米國ノ管理下ニ歸スベキ旨ヲ述ベ、(四月五日)紐育H
 記記者會見ニ於テ米國ハ戰後「マリヤテ」(Maryland) 著身ヲ西太平洋ニ於
 ケル「パール」(Pearl)、「ハイバー」(Hawaii) 著身ヲ西太平洋ニ於
 月三十日「パール」(Pearl)、「ハイバー」(Hawaii) 著身ヲ西太平洋ニ於
 「UP」。



(註十四)
 「ハックワース」ハ議長ニ選舉セラレタル處彼ハ本委員
 會ハ英、蘇、支及米ノ四ヶ國政府ノ主催スルトコロナル
 フ以テ英、蘇、支ノ代表カ順次議長席ニ着クヲ適當ト思
 考スト述ヘ委員會全體ノ賛成ヲ得タリ
 (註十五)
 別途情報ニ依レハ委員會ハ地域の紛争ヲ處理スヘキ地域
 的裁判所ノ創設ニ關スル提案ヲ討議シタルカ地域の裁判
 所ハ第一審裁判所トナリ國際司法裁判所カ控訴ヲ扱フコ
 トトナルヘシ更ニ非聯合國ノ提訴モ審議セラレタル處「
 Iグ」裁判規程ニ依レハ非聯合國ト雖モ常設國際司法裁
 判所ハ聯合國加入シ得タルモ目下ノ傾向ヨリ考フレハ新裁
 判所ハ聯合國以外ニハ門戸ヲ閉鎖セラレヘキ趣ナリ(四
 月十日華府發AFP電)

設立ヲ冀求スルコトアルヘキモ右ハ現行裁判所カ數次ニ
 亘リ上院ニ依リ非議セラレ且拒否セラレタルヲ記憶シ古
 キ精鋭ト敵意トノ復活ヲ恐ルルカ爲ナルヘシ、若シ然リ
 トセハ彼等ノ警戒ハ不必要ナリ、時勢ハ變化シ特ニ米國
 上院ノ國際問題ニ對スル見解程變化セルモノハナシ、
 、ト論セリ(註十六)

ル如ク任意的ノモノトスルヤ又ハ特種ノ事件ニ付裁判所ノ
 官制ヲ強制的ノモノトスルヤナリ。(四月二十日米官中電)
 (註十五)
 委員會ノ終了
 委員會ハ四月二十日議事録ヲ印式ヲ行ヘリ。委員會ノ議事
 ノ結果ハ議事録及規程草案トシテ桑港會議ニ回付セラレ長
 ノ審議ヲ受クルコトトナルヘシ
 (1)委員會ニ關スル諸向懸
 「ステテイニアス」ハ商務官ハ國際司法裁判所ハ公的ニ
 ハ未ダ存在スルコトノ間ニ答ヘ判事ハ依然其ノ職ニ在リ
 (Holding over) 下答ハ裁判所ハ何レニ在リキト答ヘ又
 トノ間ニ對シテハ裁判所ハ審議中ナリト聞ニ對シテハ谷
 現在裁判所ハ事件ヲ審議中ナリト聞ニ對シテハ谷答ヘ又
 ノ解答ヲ與ヘタリ
 (2)
 現行國際司法裁判所ニ對シテハ四月十一日ハ委員會ハ
 之ヲ其審議司法裁判所ニ對シテハ四月十一日ハ委員會ハ
 一「オーリン」アルニアス」ニ於テ指稱セル如ク設
 存該條約(Compulsary Arbitration)有スル國際條約
 當該條約ノ所權ヲ有スル場合ニ依リ國際司法裁判所カ
 妥自當ニ於テ起草者ハ或ハ全然新ナル國際司法裁判所カ
 家

又委員會ハ國際司法裁判所所在地トシテ「ハーグ」ヲ推
薦スルコトトシ（四月十一日華府）裁判所公用語ハ佛語
タルヘシトノ決定ヲ爲シタル趣ナリ（四月二十四日巴里
AFP）

（註十六）
「マンロー、カドソン」（Manley Hudson）（現常設國
際司法裁判所判事）ハ非公式「オブザイバー」トシテ法
律家委員會ニ列席方招請セラレタル處國務省ハ「ハドソ
ン」ハ四月十二日午前ノ會合ニ出席セル旨發）表セリ
（四月十三日米官用報）
尙法律家委員會ニ出席セル米國代表ハ「ハツクワース」
ノ外「コロンビア」大學教授「フイリツブ、ジエサツブ」
（Philip Jessup）及司法省檢察次長（Solicitor-General of
Department of Justice）「チャイルズ、マンロー」
（Charles Fahy）ナリ

0177

RB'-0023

0220

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan